令和６年６月１０日

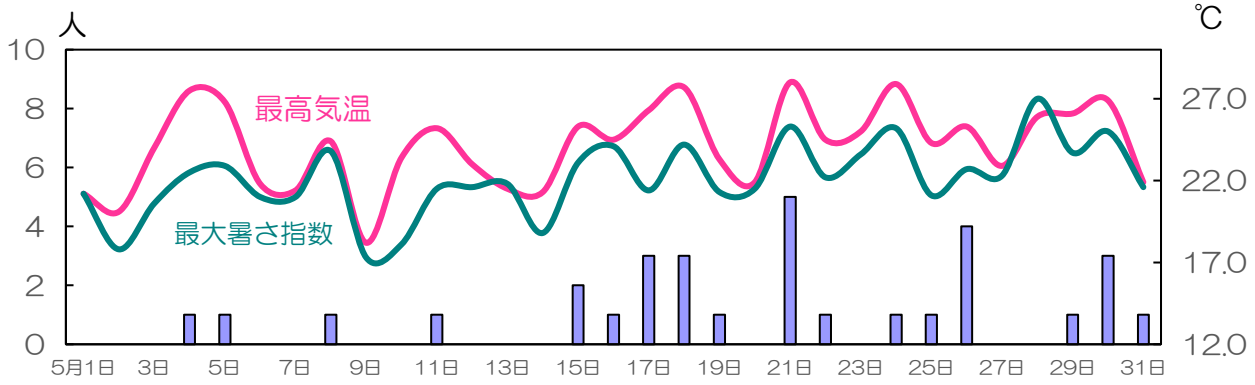
熱中症情報

＜搬送数＞

令和6年4月29日～5月31日までの搬送数（消防局データを使用）は、計31人（4月0人、5月31人）でした。5月21日は最高気温28.0℃と高く、搬送数も5人/日と、期間内で最多を記録しました。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

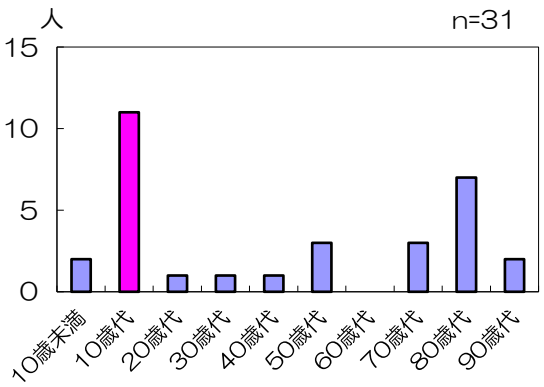
身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。



暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の３つを取り入れた温度の指標　詳細は「環境省熱中症予防情報サイト　暑さ指数（WBGT）とは？」をご覧ください。

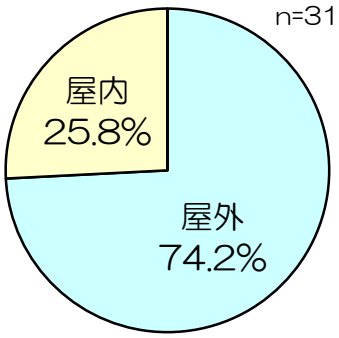
＜年齢別＞

10歳代が11人（35.5%）で最も多く、次が80歳代で7人(22.6%)でした。



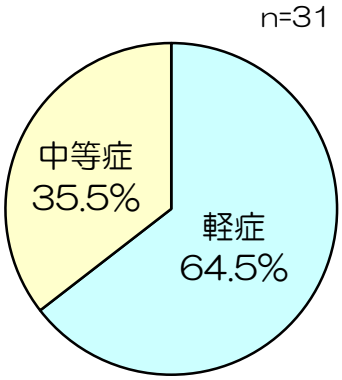
＜発生場所＞

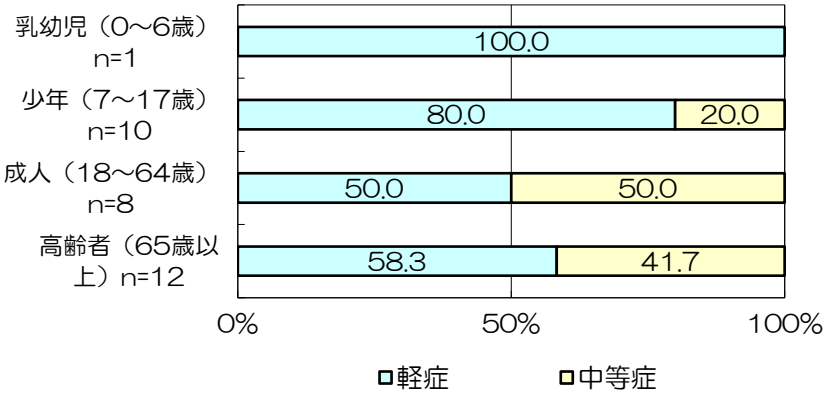
屋外74.2%、屋内25.8%で、屋外での発生が多くなっています。



＜重症度*＞

軽症64.5%、中等症35.5%でした。成人で中等症の割合が高い傾向が見られました。





*重症度の定義（横浜市熱中症情報）